

教育研究所だより

令和2年(2020年)

11月号

(通算231号)

き どう
輝 動

(きどう:子どもが輝き、躍動するまち)

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



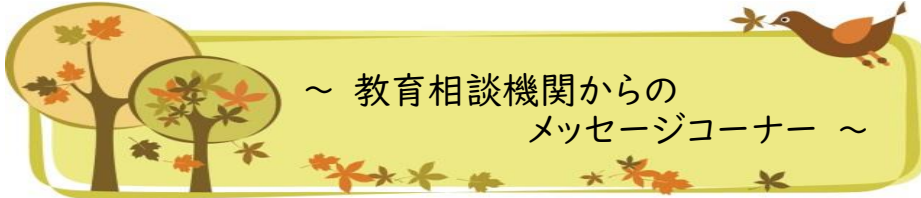
今だからこそ 授業づくりを楽しむ

近江八幡市立安土小学校 校長 寺村 浩

今年度から小学校では、新しい学習指導要領が実施され、「何ができるようになるか」という観点から、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱からなる「資質・能力」をバランスよく育てていくことに大きく変化しました。そして、その資質・能力を育てるために、言語教育の充実や外国語教育、プログラミング教育など新たに導入されたものなど、教育の充実が図られています。また、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が重要視されています。しかし昨年度末から新型コロナウイルス感染防止による臨時休校や分散登校、学校再開後も新しい生活様式による制約の多い教育活動や学校生活と大きく変わりました。行事等の中止や縮小、グループ活動やリスクの高い学習活動の制限、マスク着用やソーシャルディスタンスなど、これまでに経験したことがない学校生活や学習指導が現在も続いています。そんなコロナ禍の中、これまで当たり前のようにしてきた座席の配置や対面式のグループ活動(対面式という言葉もわざわざ使っていませんでしたが)や近距離での活動等が、子どもたちにはいかに大事で効果的であるのかをあらためて感じています。これまで子どもたちに力をつけていくために、教材研究や授業の在り方を創意工夫して実践してきましたが、失われた授業時数の確保や学習保障等を優先するために、つい教師中心の授業形態が繰り返されたり、目の前の子どもを見失ったりしてしまうと、子どもたちは、「楽しい」、「わかった」といった充実感や達成感、学習意欲が生まれてこないでしょう。

授業づくりは、子どもたちが、「なんで?」「そうか」「どうしたらいいのかなあ」「こうしたらええんちゃうん」「次はこうしてみよう」など、自分一人で、また友だちと話し合っ、考えが深まったり、広がったりして変容や高まりが見られると、楽しく面白くなってきます。そのために、教材研究や教具の開発、また、地域学習では、地域に足を運んでネタを仕入れるなど、指導や手だての引き出しを増やしていくことが大事なことは言うまでもありません。先輩や同僚の先生方に聞いたり、知恵を出し合ったりしながら、子どもたちのために授業づくりを楽しんでほしいと思います。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は、コロナ禍の中でも追及していかなければなりません。コロナ禍の今だからこそ、授業づくりをより意識し、楽しめることができれば、ピンチが教員の指導力の向上につながるチャンスにもなるのではないかと思います。



「つながりたい」

ホームスタディ アドバイザー

不登校の子を抱える家庭の事情は実にさまざまであり、その子のおかれている状況や課題は一人ひとり異なります。そのために学校関係者と話し合いをもち、学校や家でのようすを丁寧に聞きます。その上で三人で相談しながら、目あてや計画を立てます。週に一回1時間の対応の中で、だんだんうちとけて、訪問を心待ちにする姿を見ると、やりがいを感じます。ゲームなどに夢中になって机に向かえない時は、私たちの手作りの工作で遊ぶなどして、気分転換を図ります。訪問した後はその日のうちに、学校の担当者に内容やようすを報告するなどして、連携を密にしています。

昨年度は、不登校傾向の強かった姉妹ですが、妹の方は、学校の先生が迎えに行かれると、教室に入れる日が増えてきました。姉の方は、私たちの訪問時は、玄関の鍵を開けて待ってくれるようになりました。それで一緒に登校して別室で活動しています。自分で「引きこもっていた」と言うわりには、世の中の出来事に関心を持っていたり、家族を思いやったりする姿が見られます。その都度新鮮な気持ちにさせられます。

「発達自己運動である」の言葉を念頭に置いて、目の前の子どもたちに向き合っていきたいと思います。

「今この子にプラスワンを」

適応指導教室「よしぶえ」指導員

『日々の教育は、常に現状の子どもが持ちうる力にプラスワン(+1)した目標を掲げ、成し遂げることである。』

私が大学時代に教育心理学の講義で教育のあるべき姿として教わったことです。

クラスや学年全体にとってはプラスワンの目標も、ほかの誰かにとってはマイナス(簡単)だったり、またほかの誰かにはプラス2(難)だったりするものですね。個々の能力に差があったとしても、子ども自身の頑張りや互いを思いやる気持ちによって、全体として成し遂げられていくというのが集団で学ぶことの意義なのでしょう。

では、本来の居場所で過ごせなくなった子たちに施すべき『日々の教育』とは、どのようなものなのでしょうか。



決まりきった正解のない難問の答えを、私たちは目の前の子たちと一緒に模索します。居場所を失った子は、長い間悩み疲れて、自信を無くし、過去輝いていた頃の自分の姿を頼りに、毎日懸命に生きています。その断片に、今の自分でも頑張れる『何か』や新たに信じられる『確かなもの』を求め、わからなくて、恥ずかしくて、苦しみながら、それでも挑戦しようとする彼らの等身大を感じられる瞬間があるのです。



「よしぶえ」は、次のステップへ踏み出したいと願う子どもたちが、自分にとってのプラスワンを見つけるための居場所であり続けたいと思います。

「コロナ禍での相談室」



教育相談室 | 相談員

コロナによって学校では新学期から6月まで休校を余儀なくされ、相談室はしばらくの間、対面相談ではなく電話相談のみの対応となりました。休校後の電話相談は姿が見えない中での相談となり、相談者の方の様子は、声のトーンやお話の内容からの受けとめとなりました。子どもたちも大人もみんなが感染症への恐怖を目の当たりにし命を守る中、しだいに心身ともに疲弊し、心が肺炎になったような感覚だったのではないのでしょうか。子どもたちの中には、実際に消毒をあまりにも丁寧にしているうちに強迫神経症のような症状が出たり、マスク装着によって相手の顔の表情が読みとりにくくなったことへの困り感などのお話も聞いています。また、家族が自宅にいる機会が増えた中でのトラブルや、思うように学習が進まない不安もありました。視点を変えるとコロナ禍での休校により、登校しなくてもよい状況にホッとして元気になったという不登校傾向の子どもたちもいました。現在は対面相談も可能になり、来室者の表情や様子から心の中の思いをかいま見ることができるようになりました。不穏な世の中私たちに必要なチカラは、変化に対する心の柔軟さ、心身の免疫力アップ、自分なりの心の整理の仕方や困ったときに相談するなどではないのでしょうか。気になっていることをノートに書いたり、声に出してみるのもいかがでしょうか。



「不安」への対処

教育相談室2 専門員

今年度は、いつもとは違うスタートでした。コロナ禍の影響により3月から全国の学校が休校となり、緊急事態宣言が発出され、外出規制もあり、これまでに経験したことがない生活を国民が送っていました。徐々に生活は元の形に戻りつつありますが、それでも元通りとは言えず、with コロナという言葉の通り、マスクや手洗い、アルコール消毒など感染症対策を行いつつの生活です。また、コロナ禍の影響は私達の生活に不自由さを生じさせたりしている部分もありますが、急速にテレワークや授業のオンライン化が進み、これまで出来なかったこと（浸透していなかったこと）が出来るようになり、この点においても元通りの生活というより、新しい生活様式が取り入れられた生活になってきています。

コロナは目に見えません。ワクチンや治療薬がまだ開発途中の段階です。だからこそ、「いつ、どこで感染するか分からない」し、「感染してしまうとどうなるか分からない」という「不安」に脅かされてしまったりします。この「不安」をコントロールするためには、正確な情報を得ることであったり、それに基づいてどう捉えることが妥当なのかを考えて、「正しく恐れる」ことが大事になってきます。それは、コロナに限ったことではなく、思春期に多い「他人からどう思われているか」「自分の将来がどうなるか」といった不安も同様です。

教育相談室では、このような「不安」にどう対処していくとよいか、といったことについても一緒に考えていきます。



10月の研修

第4回 市初任者研修「本市の歴史と文化」「児童生徒理解と不登校問題」 10月20日(火)

午前は、市立図書館の 佐竹 省吾 さんを講師としてお招きし、八幡教育会館にて本市の歴史や様々な文化、遺産などについてご講話いただきました。その後、市立資料館や近江商人のお屋敷などの歴史的建造物を見学しました。午後は、マナビにて本市教育相談機関である「教育相談室」「ホームスタディ」「適応指導教室『よしぶえ』」について、相談員や指導員の方々から具体的な取組や連携の仕方などについて学びました。

【参加者の感想】

○今回の研修の中では、近江八幡市の歴史を縄文時代から順を追って解説していただいた。目からうろこなお話をたくさん聞くことができたため、しっかりと学校へ持ち帰って、子どもと共に深めていきたいと考える。



市の歴史と文化について



市の教育相談機関について

○初任者研修がなければ「よしぶえ」のこともよくわからなかったと思う。今回の研修を終えて、改めて連携することの大切さに気付いた。教育相談も、電話や面談だけでなく、学校の様子を確認するための訪問教育相談があり、選択肢の多さに驚いた。



子どもの実態や悩みの交流・相談

第2回 中堅教諭等資質向上研修「中堅教諭に伝えたいこと」「授業研究会」 10月22日(木)

第2回中堅研修は、金田小学校にて「授業研究会」を行いました。当日は、5年生の体育科「ハードル走」を参観しました。その後、金田小学校の 村地 信彦 校長先生より「中堅教諭に伝えたいこと」というテーマでご講話いただき、みんなで参観した授業について検討しました。

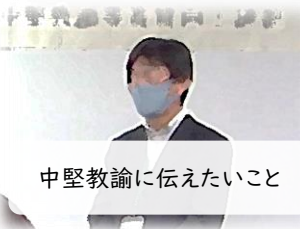
【参加者の感想】

○「現状維持は退歩である」という言葉にはっとさせられました。今年はコロナの関係で例年通りというわけにはいきませんでした。しかし、これは今年だけが例年とちがうわけにはいかないのだと思いました。



公開授業 5年「ハードル走」

○研究会では、色んな校種が混ざって話し合えたので、様々な意見や考えが出て、すごくよかったです。今後、自分たちが学校を中心となって、新しいことにも挑戦し、子どもたちの学びにつなげていく必要があると感じました。



中堅教諭に伝えたいこと



授業研究会

近江八幡市教育研究発表大会について

■日時: 令和2年(2020年)12月24日(木) (受付 13:30~)

■会場: 近江八幡市文化会館

[第一部] 教育研究奨励事業 表彰式

[第二部] 市内校園、市教育研究所の研究発表・報告

[第三部] 近江八幡市立小中学校人事交流 実践発表